

II 結果の概要

第1部 乳幼児の栄養方法や食事に関する状況

1 授乳に関する状況について

(1) 授乳期の栄養方法の推移

授乳期の栄養方法は、10年前に比べ、母乳栄養の割合が増加し、生後1か月では51.3%、生後3か月では54.7%であった。混合栄養も含めると、母乳を与えている割合は、生後1か月で96.5%、生後3か月で89.8%であった。

出産後1年未満の母親の就業状況別に母乳栄養の割合をみると、出産後1年未満に働いていた者は49.3%、育児休暇中の者及び働いていない者は56.8%であった。10年前に比べ、特に、出産後1年未満に働いていた者について、母乳栄養の割合が22.6ポイント増加していた。

図1 授乳期の栄養方法（1か月、3か月）の推移

（回答者：昭和60年度・平成7年度・平成17年度0～4歳児の保護者、平成27年度0～2歳児の保護者）

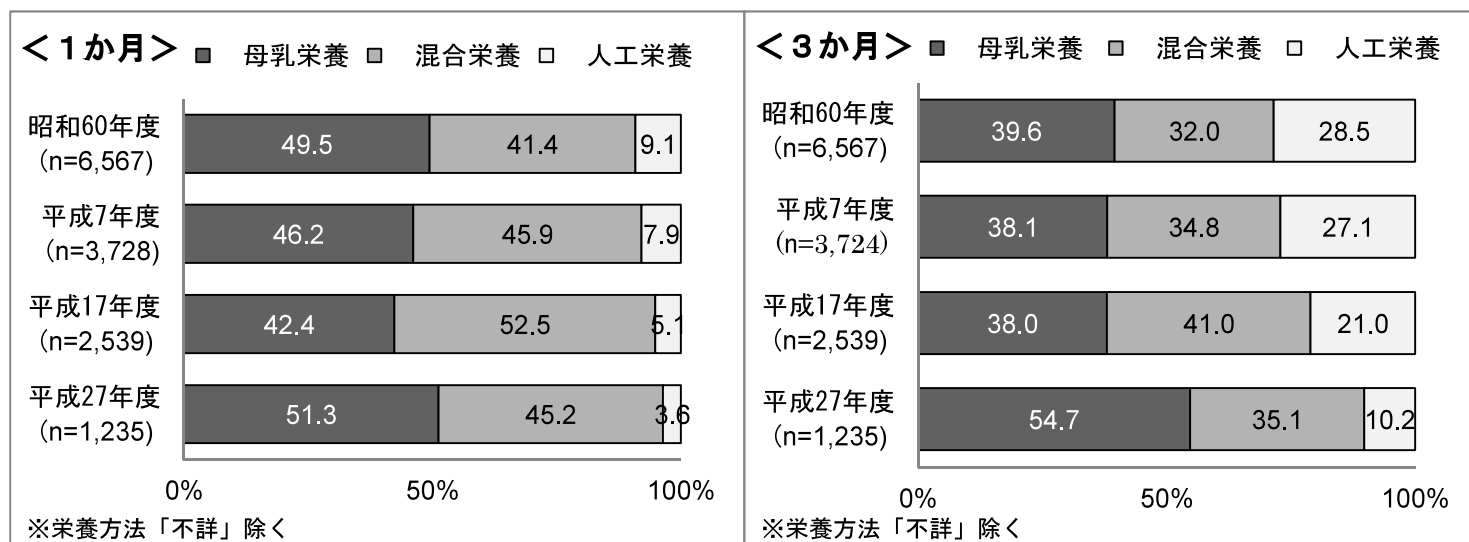
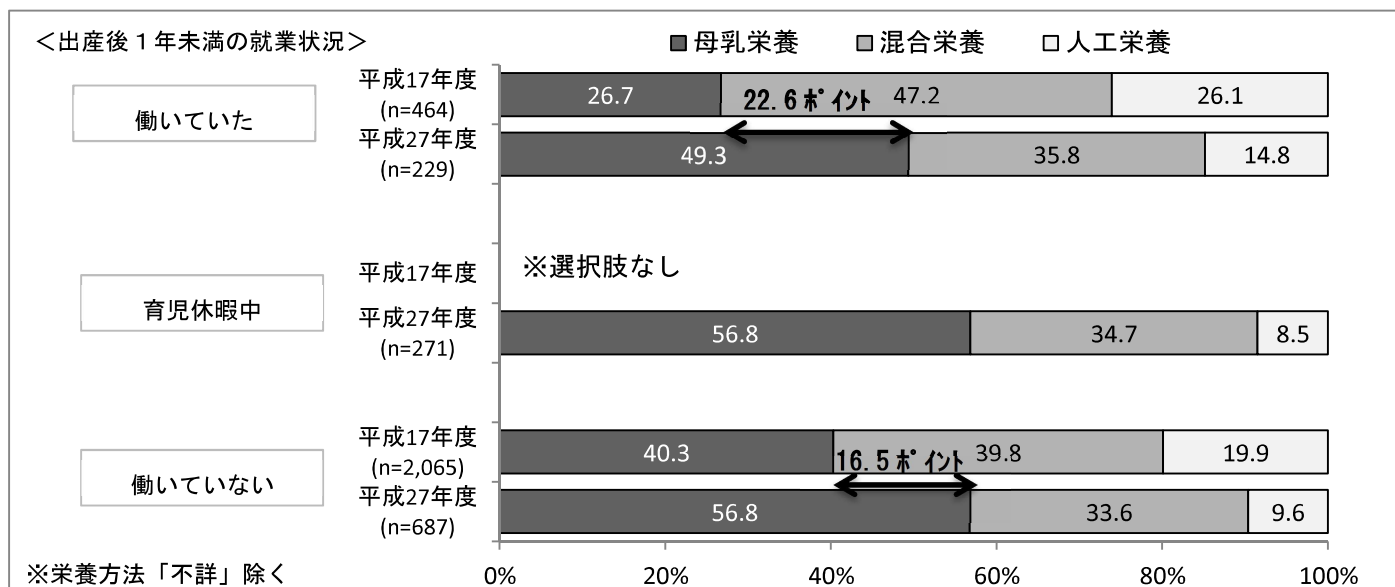


図2 出産後1年未満の就業状況別 授乳期の栄養方法（3か月）

（回答者：平成17年度0～4歳児の保護者、平成27年度0～2歳児の保護者）



(2) 母乳育児に関する妊娠中の考え

妊娠中に、「ぜひ母乳で育てたいと思った」と回答した者の割合は 43.0%、「母乳が出れば母乳で育てたいと思った」と回答した者の割合は 50.4%であり、合計すると母乳で育てたいと思った者の割合は9割を超えていた。母乳育児に関する妊娠中の考え別に、授乳期の栄養方法（1か月）をみると、「ぜひ母乳で育てたいと思った」と回答した者は、母乳栄養の割合が最も高く 67.6%、「母乳が出れば母乳で育てたいと思った」と回答した者は、混合栄養の割合が最も高く 55.6%であった。

図3 母乳育児に関する妊娠中の考え

(回答者：平成17年度0～4歳児の保護者、平成27年度0～2歳児の保護者)

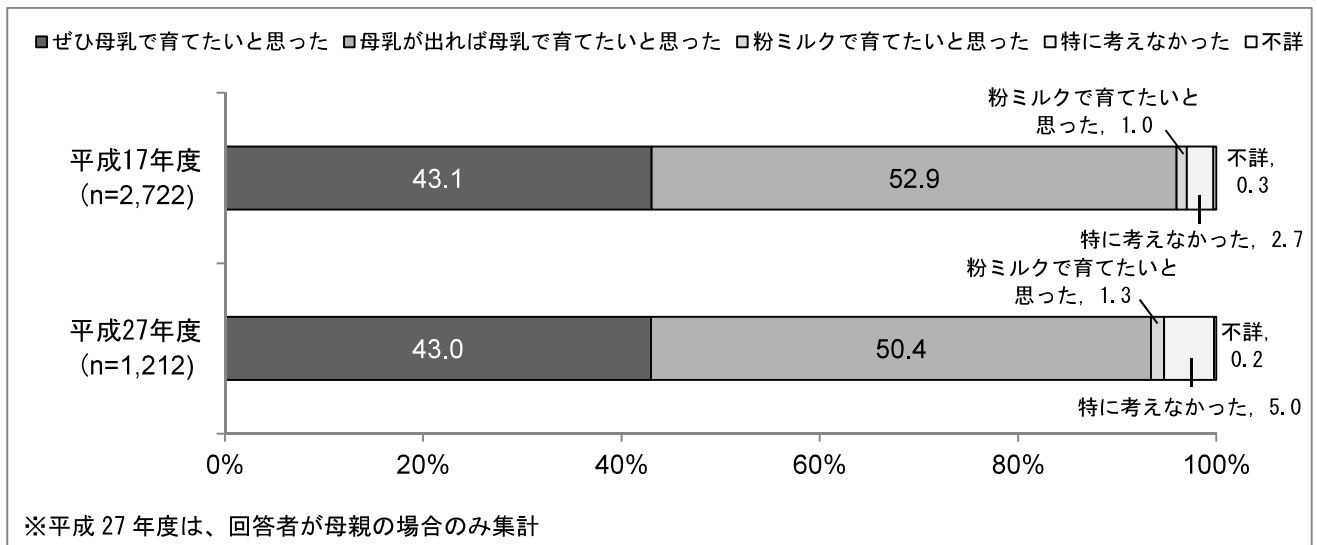


表1 母乳育児に関する妊娠中の考え別 授乳期の栄養方法（1か月）（回答者：0～2歳児の保護者）

1か月	母乳栄養		混合栄養		人工栄養	
	人	%	人	%	人	%
総数*	633	51.3	558	45.2	44	3.6
ぜひ母乳で育てたいと思った	349	67.6	162	31.4	5	1.0
母乳が出れば母乳で育てたいと思った	248	40.7	339	55.6	23	3.8
粉ミルクで育てたいと思った	1	6.3	7	43.8	8	50.0
特に考えなかった	20	33.3	33	55.0	7	11.7

※栄養方法「不詳」除く／回答者が母親の場合のみ集計

*総数には、母乳育児に関する妊娠中の考えが「不詳」を含む

(3) 母乳育児に関する出産施設での支援状況

母乳育児に関する出産施設での支援として、「出産後 30 分以内に母乳を飲ませた」について支援があったと回答した者の割合は 37.2%、「出産直後から母子同室だった」について支援があったと回答した者の割合は 27.9%、「赤ちゃんが欲しいときはいつでも母乳を飲ませた」について支援があったと回答した者の割合は 74.9%であり、いずれも 10 年前と比べ増加した。また、母乳育児に関する出産施設での支援があったと回答した者は、そうでない者に比べ母乳栄養の割合が高かった。

図4 母乳育児に関する出産施設での支援状況
(回答者：平成 17 年度 0～4 歳児の保護者、平成 27 年度 0～2 歳児の保護者)

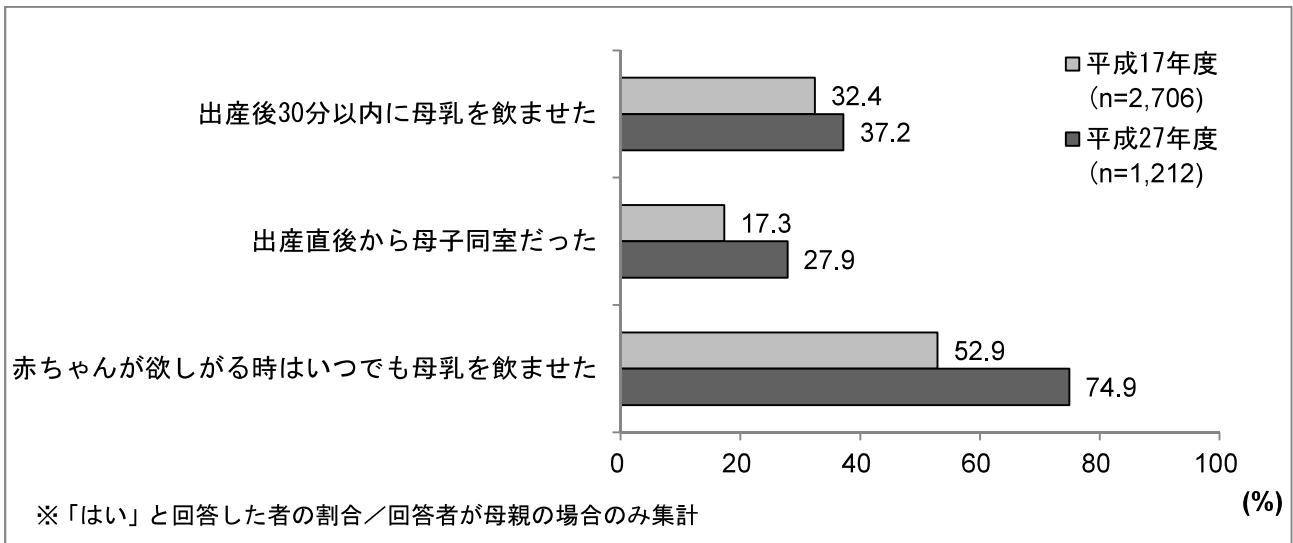
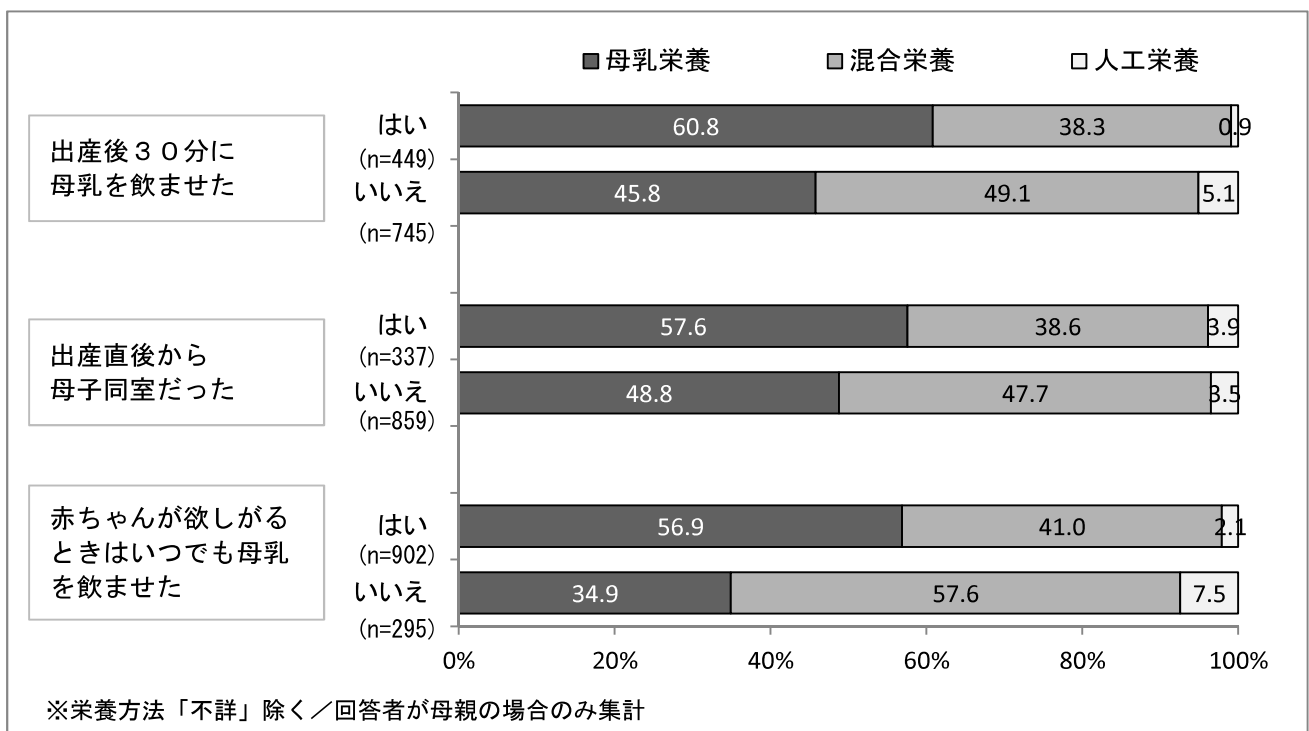


図5 母乳育児に関する出産施設での支援状況別 授乳期の栄養方法（1か月）
(回答者：0～2 歳児の保護者)



<参考>「母乳育児を成功させるための十か条」

WHO/UNICEF が1989年3月に共同で発表。お母さんが赤ちゃんを母乳で育てられるように、産科施設とそこで働く職員が実行すべきことを具体的に示した十か条。

- 1 母乳育児推進の方針を文書にして、すべての関係職員がいつでも確認できるようにしましょう。
- 2 この方針を実施するうえで必要な知識と技術をすべての関係職員に指導しましょう。
- 3 すべての妊婦さんに母乳で育てる利点とその方法を教えましょう。
- 4 お母さんを助けて、分娩後30分以内に赤ちゃんに母乳をあげられるようにしましょう。
- 5 母乳の飲ませ方をお母さんに実地に指導しましょう。また、もし赤ちゃんをお母さんから離して収容しなければならない場合にも、お母さんの分泌維持の方法を教えましょう。
- 6 医学的に必要でないかぎり、新生児には母乳以外の栄養や水分を与えないようにしましょう。
- 7 お母さんと赤ちゃんが一緒にいられるように、終日、母子同室を実施しましょう。
- 8 赤ちゃんが欲しがるときは、いつまでもお母さんが母乳を飲ませてあげられるようにしましょう。
- 9 母乳で育てている赤ちゃんにゴムの乳首やおしゃぶりを与えないようにしましょう。
- 10 母乳で育てるお母さんのための支援グループ作りを助け、お母さんが退院するときにそれらのグループを紹介しましょう。

<参考>「授乳・離乳の支援ガイド」(平成19年3月)における母乳育児の支援を進めるポイント
《妊娠中から》

- ①すべての妊婦さんやその家族とよく話し合いながら、母乳で育てる意義とその方法を教えましょう。
- 《出産後から退院まで》特に出産直後については、医療従事者が関わるなかで安全性に配慮した支援を行う。
- ②出産後はできるだけ早く、母子がふれあって母乳を飲めるように、支援しましょう。
 - ③出産後は母親と赤ちゃんが終日、一緒にいられるように、支援しましょう。
 - ④赤ちゃんが欲しがるとき、母親が飲ませたいときには、いつでも母乳を飲ませられるように支援しましょう。

《退院後には》

- ⑤母乳育児を継続するために、母乳不足感や体重増加不良などへの専門的支援、困ったときに相談できる場所づくりや仲間づくりなど、社会全体で支援しましょう。

(4) 授乳について困ったことと母乳育児に関する指導状況

授乳について困ったことは、「母乳が足りているかどうかわからない」40.7%、「母乳が不足気味」20.4%、「授乳が負担・大変」20.0%の順で多かった。授乳期の栄養方法（1か月）別にみると、授乳について何らかの困ったことがある者の割合は、混合栄養が88.2%と最も高く、人工栄養が69.8%、母乳栄養が69.6%であった。また、授乳について困ったことは、母乳栄養、混合栄養、人工栄養で最も高い割合を示す項目に違いがみられた。

医療機関等で、母乳育児に関する指導を「妊娠中に受けた」と回答した者の割合は59.3%、「出産後に受けた」と回答した者の割合は73.9%であった。

表2 授乳について困ったこと（回答者：0～2歳児の保護者）

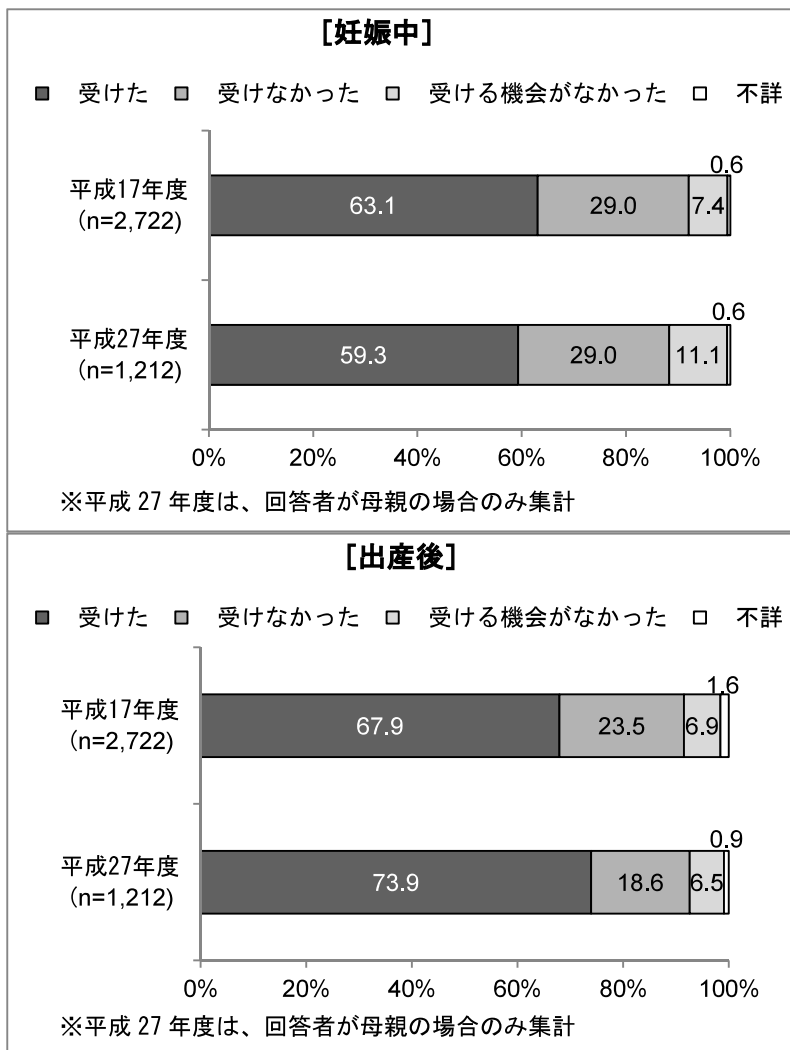
授乳について困ったこと	総数* (n=1,242)	栄養方法（1か月）別 (n=1,200)		
		母乳栄養 (n=616)	混合栄養 (n=541)	人工栄養 (n=43)
困ったことがある	77.8	69.6	88.2	69.8
母乳が足りているかどうかわからない	40.7	31.2	53.8	16.3
母乳が不足気味	20.4	8.9	33.6	9.3
授乳が負担、大変	20.0	16.6	23.7	18.6
人工乳（粉ミルク）を飲むのをいやがる	16.5	19.2	15.7	2.3
外出の際に授乳できる場所がない	14.3	15.7	14.4	2.3
子どもの体重の増えがよくない	13.8	10.2	19.0	9.3
卒乳の時期や方法がわからない	12.9	11.0	16.1	2.3
母乳が出ない	11.2	5.2	15.9	37.2
母親の健康状態	11.1	11.2	9.8	14.0
母乳を飲むのをいやがる	7.8	3.7	11.1	23.3
子どもの体重が増えすぎる	6.8	5.8	7.9	7.0
母乳を飲みすぎる	4.4	6.7	2.2	0.0
人工乳（粉ミルク）を飲みすぎる	3.7	1.1	6.1	7.0
母親の仕事（勤務）で思うように授乳ができない	3.5	4.2	3.0	0.0
相談する人がいない、もしくは、わからない	1.7	0.8	2.6	0.0
相談する場所がない、もしくは、わからない	1.0	0.3	1.7	0.0
その他	5.2	4.9	5.7	4.7
特になし	22.2	30.4	11.8	30.2

（複数回答）

※栄養方法のうち、最も高い割合を示しているものに下線

*総数には、栄養方法「不詳」を含む

図6 医療機関等での母乳育児に関する指導状況（妊娠中、出産後）
 （回答者：平成17年度0～4歳児の保護者、平成27年度0～2歳児の保護者）



2 離乳食に関する状況について

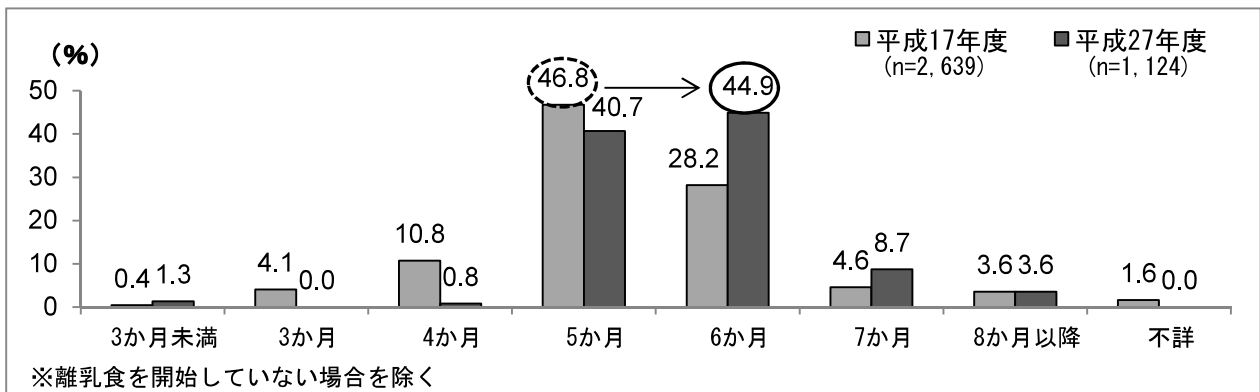
(1) 離乳食の開始時期・開始の目安と完了時期

離乳食の開始時期は、「6か月」の割合が44.9%と最も高く、平成17年度よりピークが1か月遅くなっていた。また、離乳食開始の目安は、「月齢」の割合が84.3%と最も高かった。

離乳食の完了時期は、「13～15か月」の割合が33.3%と最も高く、平成17年度よりピークが遅くなっていた。

図7 離乳食の開始時期

(回答者：平成17年度0～4歳児の保護者、平成27年度0～2歳児の保護者)



<参考>「授乳・離乳の支援ガイド」(平成19年3月)において、離乳食の開始時期を従前の「生後5か月になった頃」から「生後5、6か月頃」と変更。

図8 離乳食開始の目安 (回答者：0～2歳児の保護者)

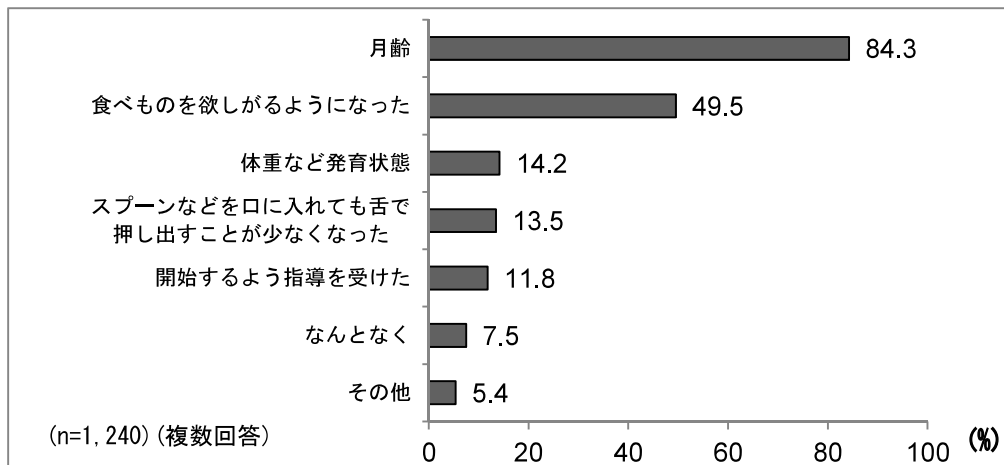
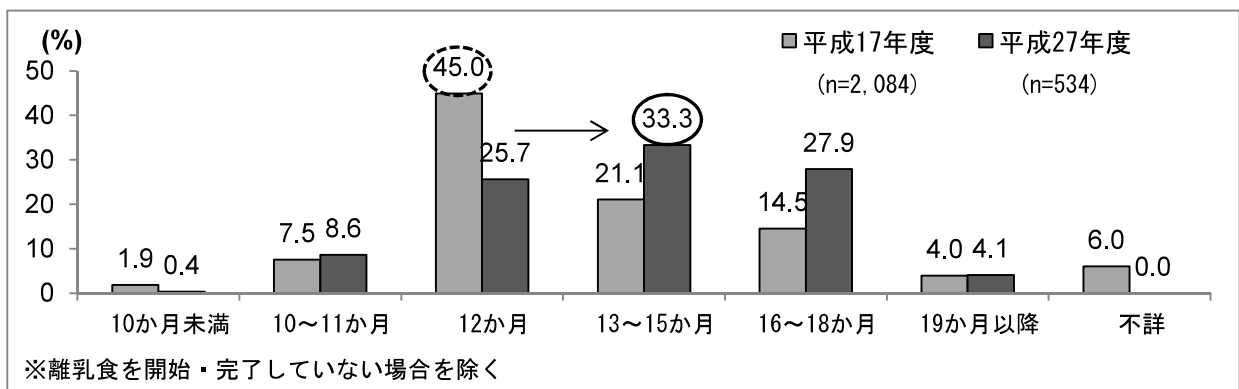


図9 離乳食の完了時期

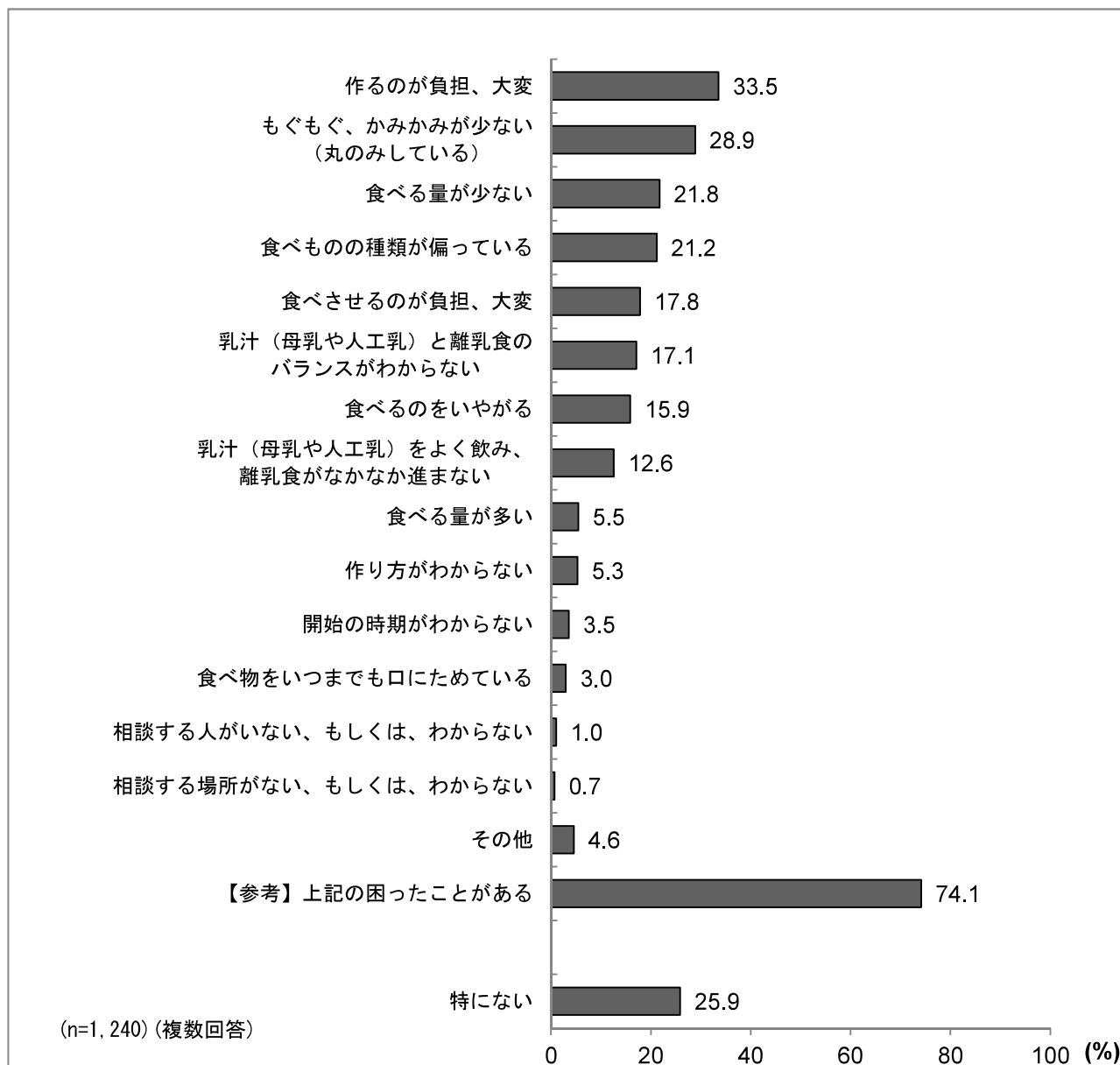
(回答者：平成17年度0～4歳児の保護者、平成27年度0～2歳児の保護者)



(2) 離乳食について困ったこと

離乳食について困ったことは、「作るのが負担、大変」33.5%、「もぐもぐ、かみかみが少ない（丸のみしている）」28.9%、「食べる量が少ない」21.8%の順だった。離乳食について困ったことは、「特
にない」と回答した者の割合は25.9%であり、約75%の保護者は、離乳食について何らかの困りご
とを抱えていた。

図10 離乳食について困ったこと（回答者：0～2歳児の保護者）



(3) 離乳食について学ぶ機会

離乳食の進め方について、学ぶ機会が「あった」と回答した者の割合は、83.5%であった。離乳食について学んだ場所（人）としては、「保健所・市町村保健センター」が67.5%と最も高く、「育児雑誌」41.3%、「インターネット」27.8%、「友人・仲間」26.8%、「あなたの母親など家族」26.7%の順だった。

図 11 離乳食に関する学習機会（回答者：0～2歳児の保護者）

①離乳食の進め方について、学ぶ機会がありましたか。

(n=1,248)

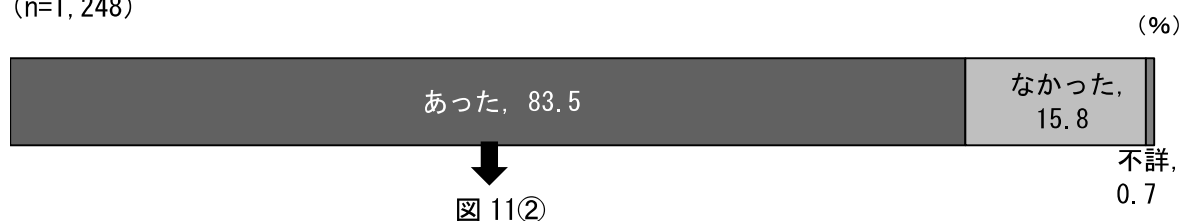
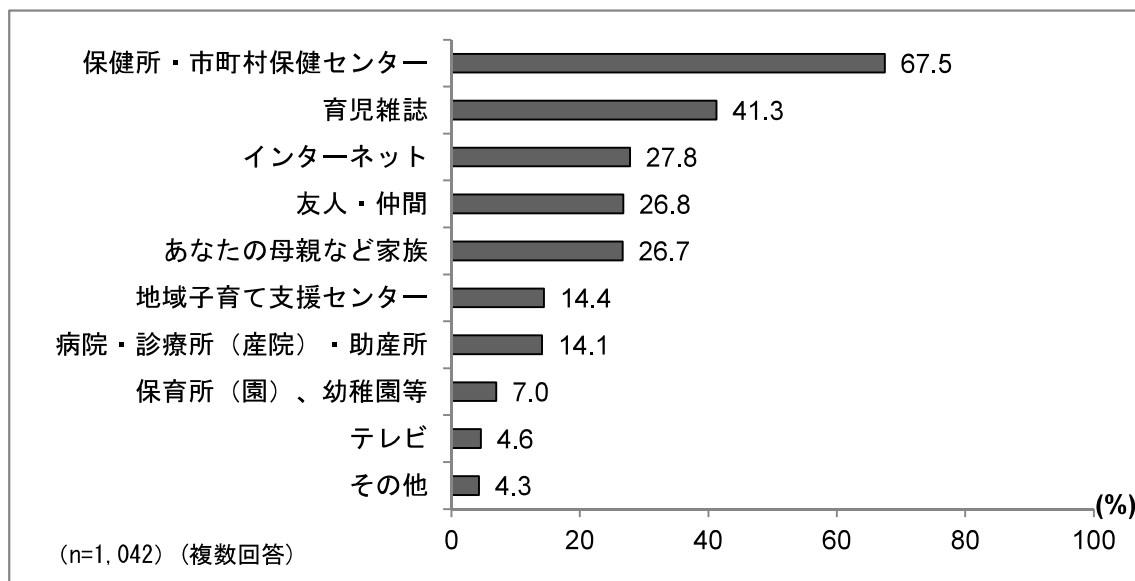


図 11②

②どこで（誰から）学びましたか。

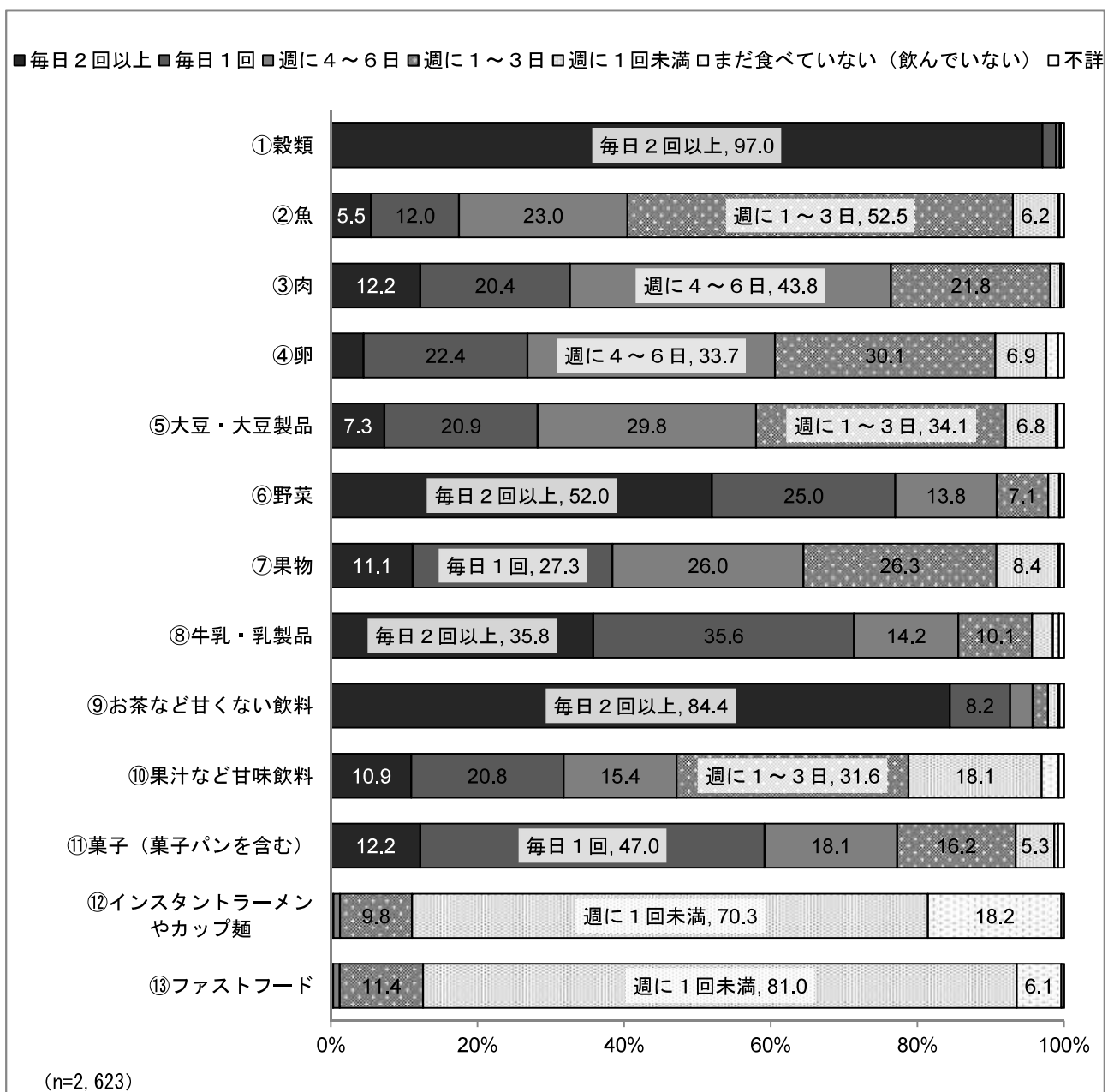


3 子どもの食事に関する状況について

(1) 子どもの主要食物の摂取頻度

13 種類の食物の摂取頻度について、穀類、お茶など甘くない飲料、野菜、牛乳・乳製品は「毎日2回以上」と回答した者の割合が最も高く、それぞれ97.0%、84.4%、52.0%、35.8%だった。菓子（菓子パンを含む）、果物は「毎日1回」と回答した者の割合が最も高く、それぞれ47.0%、27.3%だった。肉、卵は「週に4～6日」と回答した者の割合が最も高く、それぞれ43.8%、33.7%だった。魚、大豆・大豆製品は「週に1～3日」と回答した者の割合が高く、それぞれ52.5%、34.1%だった。ファストフード、インスタントラーメンやカップ麺は「週に1回未満」と回答した者の割合が最も高く、それぞれ81.0%、70.3%であった。

図12 子どもの主要食物の摂取頻度（回答者：2～6歳児の保護者）



注) 図中の5%未満のデータについては、ラベル省略。参考表参照。

(2) 子どもの間食の状況

子どもの間食（3食以外に食べるもの）の与え方について、「時間を決めてあげることが多い」と回答した者の割合が56.3%と最も高かった。

子どもの間食として、甘い飲み物やお菓子を1日にとる回数は、どの年齢階級も「1回」と回答した者の割合が最も高かった。そして、2回以上とっている者の割合は、2歳～3歳未満が最も高く41.9%であり、5歳以上が最も低く28.9%であった。

図13 子どもの間食（3食以外に食べるもの）の与え方（回答者：2～6歳児の保護者）

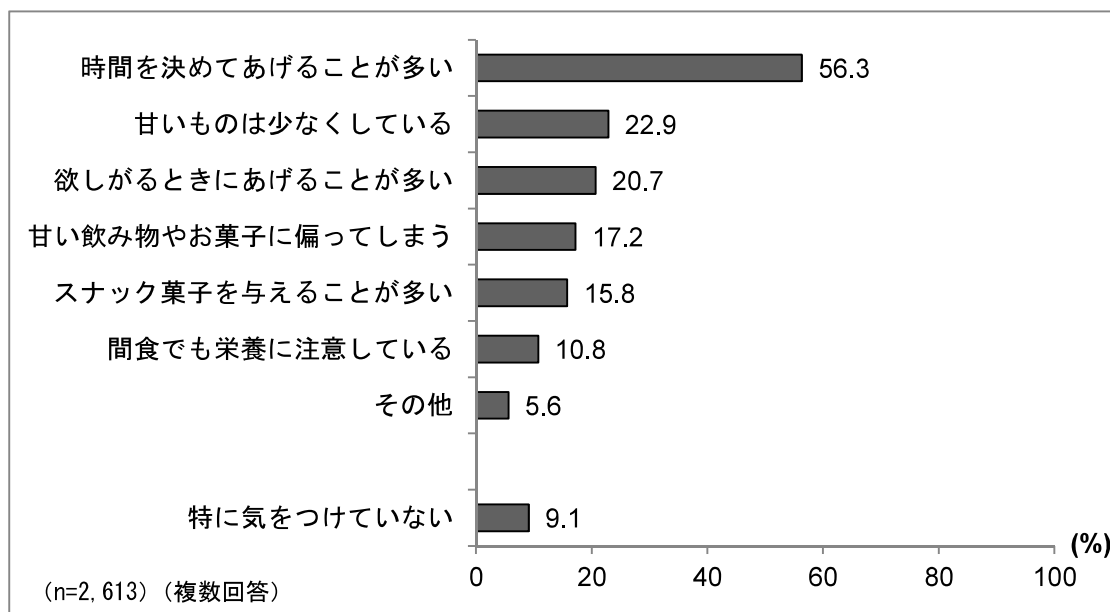
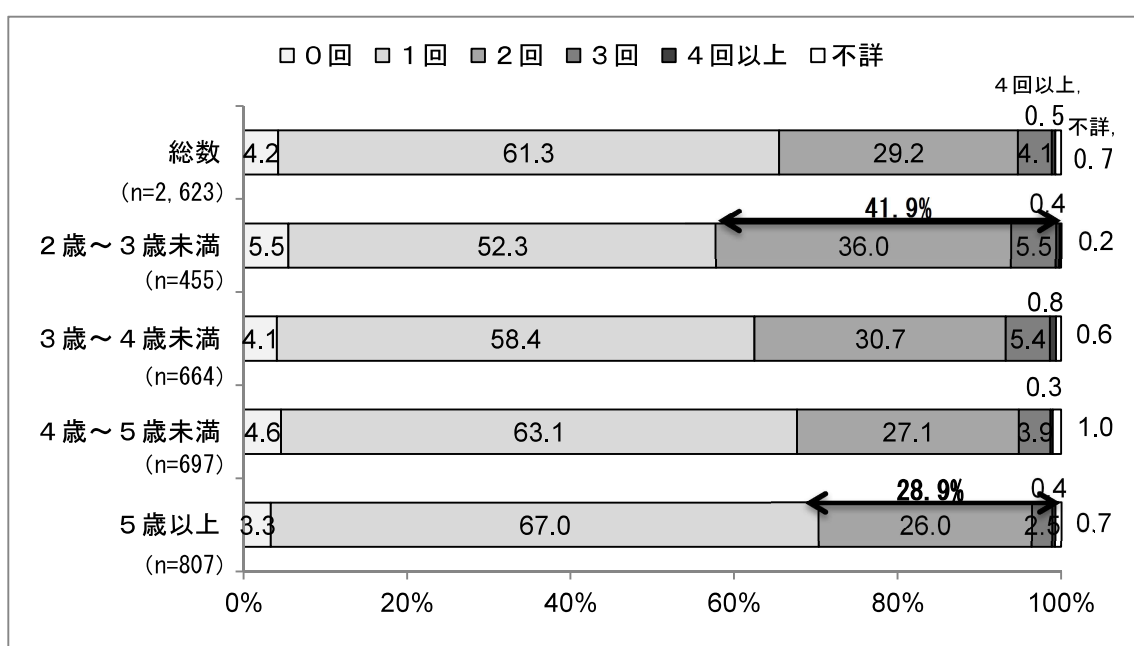


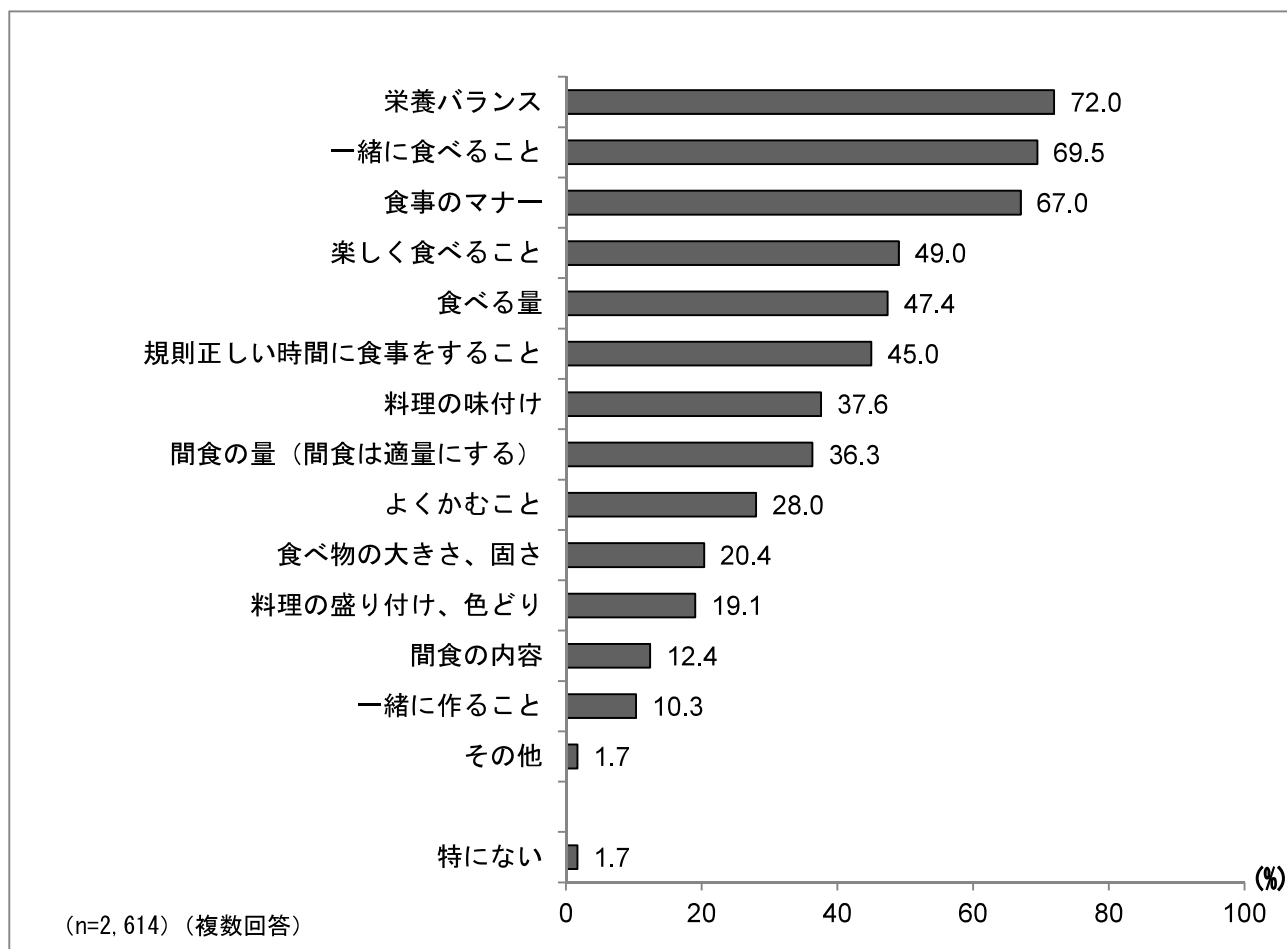
図14 子どもの間食（3食以外に食べるもの）として甘い飲み物やお菓子を1日にとる回数（回答者：2～6歳児の保護者）



(3) 子どもの食事で特に気をつけていること

子どもの食事で特に気をつけていることは、「栄養バランス」72.0%、「一緒に食べること」69.5%、「食事のマナー」67.0%の順だった。子どもの食事で特に気をつけていることは「特にない」と回答した者の割合は1.7%であり、ほとんどの保護者は子どもの食事について、何らかの気をつけていることがあった。

図 15 子どもの食事で特に気をつけていること（回答者：2～6歳児の保護者）



(4) 現在子どもの食事について困っていること

現在子どもの食事について困っていることは、2歳～3歳未満では「遊び食べをする」と回答した者の割合が41.8%と最も高く、3歳～4歳未満、4歳～5歳未満、5歳以上では「食べるのに時間がかかる」と回答した者の割合が最も高く、それぞれ32.4%、37.3%、34.6%であった。

「特にない」と回答した者の割合が最も高い5歳以上でも、22.5%であり、約8割の保護者が子どもの食事について困りごとを抱えていた。

図16 現在子どもの食事で困っていること（回答者：2～6歳児の保護者）

